

公的債務：インフレーションに賭けるメランション

ギョーム・ポワン（『ル・フィガロ』2017年4月10日）

翻訳：輝野洪瑞（2018年4月5日）

「不服従のフランスⁱ」の大統領候補ジャン＝リュック・メランションは、EU加盟国が「息を吹き返すことができる」ようにするため、ヨーロッパ中央銀行がソブリン債ⁱⁱをすべて買い取ることを願っている。それも、インフレーションを起こす覚悟で……。

土曜日の夜、ジャン＝リュック・メランションは「フランス2」の番組『オン・ネ・パ・クーシェ』ⁱⁱⁱに招かれ、公的債務の再交渉という、彼にとって重要なテーマに触れた。ちなみに2016年、フランスの公的債務は国内総生産の96%に相当する2兆1千470億ユーロに達した。この「不服従のフランス」の大統領候補は、もし大統領選挙に勝ったら「私たちの国々が息を吹き返すことができる」ために、ヨーロッパ中央銀行によるソブリン債の買い取りを主張し、欧州連合基本条約（Les traites européens）の再交渉を望んでいる。

数日前、彼の経済顧問ジャック・ジェネルーは、『リベラシオン』紙の記事の中で、「公的債務を直接ファイナンスできるように」ヨーロッパ中央銀行の改革を呼びかけていた。「もしヨーロッパ中央銀行が（EU加盟）諸国の国債を買い取り、永久債としてバランスシートに記録するならば、EU加盟国すべてが負債から解放されます（…）そうなれば、負債は帳消しになります」と、土曜日の夜にジャン＝リュック・メランションは説明した。そして次のように付け加えた。

「誰もが支払い不能な負債を取り除く方法はそんなに多くはありません。インフレーション、戦争、返済です。このうち返済はとても無理です。残るは戦争とインフレーションです。さて、私としては、私たち全員の生存のためにもインフレーションの方を好みます」。

ジャン＝リュック・メランションは、ヨーロッパ中央銀行による負債の買い取りによって、およそ4～5ポイント^{iv}のインフレーションが起きると予想している。「不服従のフランス」の指導者は、旧大陸（ヨーロッパ大陸）での全面戦争の脅威を煽ることをためらわずに力説した。「この政治はもはや耐えられません。もし私たちがこれをなんとか続けるなら、EUは崩壊し、解体する中で戦争が起きるでしょう」と彼は語った。

自由主義的な立場のエコノミスト、ニコラス・ブーズーは、ジャン＝リュック・メランションの立場について、とても懐疑的な姿勢を示している。「ヨーロッパ中央銀行はすでにEU加盟国の国債を買い取っています。これ以上は買い取れません」と述べ、次のように続けた。

「もしヨーロッパ中央銀行がすべてのEU加盟国の国債を買い取るなら、定款を変更しなければなりません。今の時点では法的には不可能です」。

このエコノミストは、やはりハイパーインフレ（極度な早さの物価の上昇）が起こり、

低所得者の購買力に衝撃を与えることも恐れている。彼は、ソブリン債全部の買い戻しが（ジャン＝リュック・メランションの見積りのような）4～5ポイントを大きく上回る、大幅なインフレーションとして表れるかもしれないと見積もる。ただしブーザーは、ギリシアの事例のように、何か国かの債務の一部のデフォルト計画（つまり部分的な債務の帳消し）には好意的な姿勢を示している。

インフレーション：ジャン＝リュック・メランションが数年来維持してきた見解

ジャン＝リュック・メランションが公的債務に立ち向かうためにインフレーションを強く勧めるのは、今回が初めてではない。2014年11月以来、ラジオ局「フランス・アンテル」で同様の話をしてきた。

「ヨーロッパは滅びるでしょう。そして、もしEU加盟国すべてを廃墟と化すこの政治が続けば、争いに突入するかもしれません。ヨーロッパ中央銀行は、EU加盟国すべてのソブリン債すべてを買い入れなければなりません」と述べた。そして次のような印象に残る衝撃的な言い回しを付け加えた。

「債務など何でもありません。私たちはみな、何でもないものために犠牲を払っているのです。金輪際、債務など返さなくてよいのです」。

当時、「不服従のフランス」の候補者は、「一方では債務の減価を可能にし、そしてEU加盟国すべてが息を吹き返し、再出発することを可能にする」として、5～6ポイントのインフレーションを示唆していた。

それに1年以上も先立つ2013年4月、ジャン＝リュック・メランションは「フランス2」の番組『発言と行動』の中でエコノミスト、ジャック・アタリに対してまったく同様の立場を貫いていた。

だが、その解決策を実行するには、欧州連合基本条約を再交渉しなければならないだろう。ジャン＝リュック・メランションは、そのことを分かっている。そもそも、それは選挙運動の重要な柱のひとつなのだ。

「大統領の交代後ただちに条約をめぐる議論をしなければならないでしょう。これは生存にかかわる緊急事態です」と数日前に説明していた。そして「私たちを窒息させている現在の条約の下では生き続けられません」とすら付け加えた。

ジャン＝リュック・メランションは、経済のタブーがまさにインフレーションであるドイツを特に説得しなければならない。

だがニコラス・ブーザーは「ドイツ人たちは、ヨーロッパ中央銀行によるEU加盟国すべての債務の買い戻しには一切応じることはありません」と締めくくった。

【訳注】

i フランスの急進左派政党。「不服従のフランス (La France insoumise)」の名は、直訳すれば「屈しないフランス」だが、「不服従のフランス」と訳すメディアもあり、本訳者も日本語の語感から「不服従のフランス」との訳語をあてることにした。

ii ソブリン債 (Les dettes souveraines) …各国の政府及び政府保証機関が保証する債券(国債など)のこと。

iii オン・ネ・パ・クーシェ (On n'est pas couché) …フランス国営テレビ「フランス2」のテレビ番組。「私

たちは寝ていません」の意。

iv 原文では、インフレ目標はすべて **point** で表記されている。日本では通常、パーセントと表記されるが、増減前後の数値差をあらわす数値としてはポイント（ポイントパーセント）が正しい。

v 注4参照。